

主 題：生きるってすばらしい

聖書箇所：ペテロの手紙第一 3章9節

生活の満足度、内閣府が出した生活の満足度調査の統計を皆さんにご紹介します。これは国民生活白書の平成19年度版です。少し前ですが、抱えている問題は余り変わらないでしょう。「生活全般に関する満足度について尋ねたところ、満足していると回答した人の割合は1978年には10.9%であったが、低下傾向が続き、2005年にはわずか3.6%になった。そして、『満足している』、『まあ満足している』と回答した人の割合を合わせても35.8%と4割弱に留まり、過去最も低い値となっている。このように生活に満足する人の割合が低下し、その一方で、不満である人の割合が高まるなど、総じて、人々の生活に対する満足度は低下していると見ることができよう。」と。また、このような記事もあります。「今後の生活で心の豊かさと物の豊かさのどちらに重点を置くかと尋ねたところ、1972年は物の豊かさと回答した割合は40.0%であり、心の豊かさと回答した割合の37.3%よりも高かった。しかし、6年後の78年には心の豊かさが物の豊かさを上回り、2005年には心の豊かさは62.9%にまで高まり、物の豊かさは30.4%まで低下している。生活満足度の低下には、より重要となってきた心の豊かさが満たされていないことが影響している可能性がある。」と。確かに、物は豊かになったけれど心は満たされていないということです。

平成23年8月29日に「幸福度に関する研究会」というのが開かれて、そこには興味深い記事がありますからご紹介します。「日本は先進国の中でも幸福度（平均値）が低いとされる。『孤独と感じている』と回答した15歳の生徒が先進国で最も多い。男性の20代から40代全般、女性の10代後半から30代全般の死因のトップは自殺であり、本研究会における議題のために実施した若年層の幸福度に関する調査においては、20代から30代のおおよそ三人に一人が過去に本気に死のうと思ったことがあると訴えている。ストレスを抱えうつ病にかかり仕事に希望を見出せない大人たちがいる。」とこのように分析しています。皆さんの周りでもそのようなことを現実に見ておられるかも知れないし、もしかすると、皆さんご自身がこのような悩みを抱えておられるかもしれません。

今日、私たちがごいっしょに考えたいことは、生きていること、また、生かされていることを心から喜び感謝している人がいったいどれだけいるのかということです。どれ程の人たちが「今日生かされていることがうれしい。今日、こうしていのちが与えられていることがすばらしい。」と感謝しながら喜びながら生きているでしょうか？もちろん、今見て来たように、この世において人々は希望がなくて「また新しい日が始まった。何のために生きているのだろうか？」と、そのような思いを抱きながら歩んでいます。そのような人たちがたくさんいることは分かっています。でも、今はその人たちにフォーカスを当てるのではなく、私たち信仰者にフォーカスを当てます。主によって罪の赦しをいただいた私たちは何のために生かされているのか、その目的を知った私たちクリスチャンが生かされていることを心から喜んでいるかどうか、そのことを心から感謝しているかどうか？どれだけのクリスチャンが「生きるって本当にすばらしい！」と心から言えるかどうか？そのことを私たちは今から考えたいのです。なぜなら、そのように生きることができるのが私たちなのに、私たちはそのように生きていないから、喜びをもって生きることができるはずなのに、そのように生きていないからです。

今日、私たちが見ていくのはペテロの手紙第一3章です。ペテロは私たち「私たちはどのように生きていけばよいのか」を教えてください。そして、願わくは、皆さん一人一人がペテロが教える生き方をもう一度見ていただいて、その生き方に倣って歩み始められることです。なぜなら、そのときに今話しているように「本当に生きていてよかった。生かされていることはすばらしい。」と心から告白しながら生きる信仰者に変えられていくことが可能になるからです。

I ペテロ3：9を見る前に、8節でペテロはクリスチャンに対して「クリスチャンどうしがどのように生きていけばよいのか」という、クリスチャンどうしの関係について語っているところを見ます。ペテロはここで教会の中であって、主イエスによって罪赦された者たちがどのように生きていくのかを教えています。五つのことが記されています。

◎クリスチャンどうしがどのように生きるのか？

3：8「最後に申します。あなたがたはみな、心をつにし、同情し合い、兄弟愛を示し、あわれみ深く、謙遜でありなさい。」

1. 心をつにする

「あなたがたはみな、心をつにし、」とあります。つまり、クリスチャンどうしが争うのではなく、一

致をもって歩んでいきなさいということです。教会が分裂ではなくそれぞれが本当に一つになるようにと。だから、分裂を起こすような働きではなく、一致をもたらし働きをしていきなさいと言います。

2. 同情し合う

「同情し合い、」とあります。同じ心をもちなさいということです。教会にあってクリスチャンたちがお互いの喜びをともに喜び、悲しみをともに悲しむような関係でありなさいと。人の成功や喜びを見てそれを妬んでしまうようなことが決してあってはならないのです。ローマ 12 : 15 「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。」とある通りです。

3. 兄弟を示す

「兄弟愛を示し、」家族なのだから兄弟なのだから、自分を愛するように隣人を愛しなさいととみことばから何度も教えられている通りです。兄弟よりも自分を愛するところに問題がありました。

4. あわれみ深くありなさい

「あわれみ深く、」心においてやさしくなりなさいということです。エペソ 4 : 32 「お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」と、教会にあってクリスチャンたちがいがみ合っている、争っている、悪口を言い合っている、そうではなくて互いに赦し合っていくべきです。

5. 謙遜でありなさい

「謙遜でありなさい。」と、傲慢であってはいけないのです。まさに、ここで言われていることはそれぞれが思い上げることを禁止しているのです。あの人より私は優れているとか、この人より私はまさっているというくだらないことではなく、私たちは人々に仕えるものとして互いに仕え合っていくように、謙遜であれと言います。

このように、ペテロはこの五つのことを教会の中であって、兄弟姉妹たちがこのように歩んでいくようにと教えています。さて、9節に移ると、今度はクリスチャンどうしの関係から、クリスチャンとそれ以外の人たちとの関係について話を進めていきます。特に、敵意や悪意をもった人たちに対する対応を教えています。悲しいことに、そのような人たちがいることは事実です。皆さん、私たちはそのような人たちと接することによって喜びを失ってしまうことがあります。そのような人が周りにいなければ喜んでいるのに、そのような人たちを見て、また、いろいろなことを聞いたりされたりすると、私たちは先ほどまでもっていた喜びや平安を失くしてしまったりします。「なぜ、あんなことを言われるの？なぜ、そのようなことをされるの？」と。ですから、私たちがフォーカスしなければいけないことは、そのような現実に対して私たちはどのように向き合っていくべきなのか、非常に難しい人たちとどのように向き合っていくべきか？そのことをペテロはこの9節のみことばを通して教えを与えてくれるのです。

A. 難しい人への対応 9節

「悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。」

1. 愛をもって接する : 「悪をもって悪に報いず、」

ここでペテロが言わんとしていることは、無条件の愛をもって愛し続けていきなさいということです。ここで使われている「悪」ということばは「不快、不正、違法、悪事、また、肉体的精神的に害を及ぼす、損害をもたらす、危害を加える、傷をつける」という意味をもったことばです。そして、「報いず、」という動詞は「返す、返報する」という意味です。つまり、「仕返し」のことです。ですから、ペテロは最初に「人の為す悪に対して仕返しをしてはいけない」と言うのです。確かに、それはペテロだけが教えたことではなくて、パウロもそのように教えています。ローマ 12 : 17-19 に「だれに対してでも、悪に悪を報いることをせず、すべての人が良いと思うことを図りなさい。:18 あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。:19 愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。」とあります。また、箴言 24 : 29 にも「彼が私にしたように、私も彼にしよう。私は彼の行いに応じて、仕返しをしよう」と言ってはならない。」とソロモンは言っています。ですから、新約聖書だけでなく旧約聖書でも同じことが言われているのです。人があなたに悪を行なうときに、その悪に対して仕返しをしてはいけないと言うのです。人の悪にリベンジするというような思いをもって行動してはいけないと言うのです。というのは、この「報いず、」という動詞は現在形を使っているからです。ペテロはこのようなことを継続してはいけないと言うのです。

⇒結論、

(1) あなたには正しいことを行なう責任があることを覚える

確かに、人々があなたに対して行なう悪をあなたは回避できないかもしれない。もしかすると、あなたのことを誤解してあなたを悪く言うかもしれません。あなたにだれかは悪を働こうとするかもしれま

せん。その背後に妬みがあったり怒りがあったりするでしょう。そのような現実の中で神があなたに教えることは、信仰者であるあなたにはどんなときにも正しいことを選択する責任があるということです。実は、ペテロがそのことを教えています。Ⅰペテロ2：21に「あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。」とあります。つまり、主イエス・キリストは私たちのためにどのように生きていくべきなのか、その模範を示しているということです。教えを与えただけではないのです。彼は実際に生きることによって、このように生きなさいと模範を示してくれていると。そして、続けて22節「キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。」と言います。行ないとことばの両面が記されています。キリストは罪を犯したことがない、神の前に間違ったことを行なっていないし、神が悲しまれるような罪を口にすることがまったくなかったと。これは主イエス・キリストの言動です。23節には「ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。」とあります。

イエスは人の悪に対して仕返しをされなかったということです。常に、神がお喜びになることを選択したと言うのです。言えることは、これからあなたに対していろいろな悪が為されていくでしょう。でも、私たちが覚えておくべきことは、どんなときにも私には神の前に正しいことを選択していくという責任があるということです。皆さん、このような状況のときを思い出してください。私たちが人の悪に対して怒りをもったとき、そして、何とか仕返しをしようと正しくない行動を取ったとき、一瞬のうちに私たちから喜びがなくなっていくます。その怒りを相手にぶつけて「ああ、すっきりした！」と一瞬思っても、同時に、私たちは言ったことばに対して取った態度に対して非常な空しさに襲われます。不思議なことですが、それはあなたのうちにいる神が教えてくれているからです。あなたのしていることは間違っていると。どんなときでもあなたに与えられている責任は、神の前に正しいことを選択することです。そして、あなたがそれを選択し続けていくなら、あなた自身に約束された神の祝福をあなたは失うことがないのです。喜びも感謝も、喜びがもたらす賛美も留まることがないのです。それはあなたが神の前に正しく歩んでいるからです。

(2) 主の報いを感じる

自分自身にはいつも正しいことを行なう責任があるということを感じるだけでなく、主の報いが必ずあるということです。私たちはみな悪を行なうなら必ず神はその悪をさばかれると知っています。すべての人は創造主なる神の前に立つからです。そして、それぞれの罪に対して神から公正なさばきを受けるのです。だから、あなたに悪を働く者たちに対しても、その悪に対して神からの審判があると知っています。もう一つ、考えなければならぬことがあります。同時に、その中であなたが間違った選択をするなら、そこにも責任が生じるということです。そこにも報いが伴うのです。先ほどから話しているように、その報いは私たちから喜びがなくなってしまうことです。だから、いつも神が喜ばれることを選択することです。そのことを神に助け求め続けていくことです。「あなたの前に正しいことを選択したいからどうぞそれを教えてください。そして、その教えられたことを実践する助けを与えてください。」と。どんな人にもこの神の愛、無条件の愛をもって接していきなさいと。

2. 赦すこと : 「侮辱をもって侮辱に報いず、」

「侮辱」とは「悪口、嘲弄する」です。実は、この「侮辱」ということばは新約聖書に2回しか出て来ません。名詞形で使われているのは今見ている3：9と、もう一箇所はⅠテモテ5：14でそこでは「そしる」と訳されています。「ですから、私が願うのは、若いやもめは結婚し、子どもを産み、家庭を治め、反対者にそしる機会を与えないことです。」「そしる」とは「非難すること、悪く言うこと、けなすこと、悪しげに言うこと」です。そして、「侮辱」の動詞形が実は先ほど見たⅠペテロ2：23にある「ののしられても」なのです。このようなことを総合すると、ペテロがここで言いたいことが鮮明に見えて来ます。「悪口、嘲弄、そしる、ののしる」ことです。だから、人々があなたに対してどのような悪口を言おうと、非難しようとかけなそうと、仕返しをしてはいけないということです。却って、赦してあげなさいと言うのです。非常に難しいことです。なぜなら、悪口を言われたなら大切な自分が傷つけられたわけですから、何とか言い返そうという思いが出て来るのは、私たちみなが経験していることです。でも、先ほどから見てるように、人があなたに悪いことをしたときに私たちが仕返しをすると祝福を失ってしまうように、人の悪口に対して私たちがそれを怒って同じように言い返すなら祝福を失ってしまいます。

「赦してあげなさい」と言います。皆さん、思い出しませんか？主イエス・キリストがガリラヤ湖畔で弟子たちに話されたとき「祝福された者」と言われました。このような者たちが神に祝福される者たちだと。「心の貧しい者」です。つまり、本当の自分の罪深さを知っている者です。自分がどれほど罪に染まった人間であるかを知っている者です。ですから、どんな批判があっても自分はそれ以下だと知っているゆえに、その批判に対して怒りをもたないのです。神がご覧になっているように、私たちは自分

自身を正しく見ることです。私たちはいつも周りの人たちと比較して生きることを教えられてきました。あの人より優っているとか、この人よりも劣っているとか…。そうではなくて、正しい聖い神があなたをどのように見ておられるのか？です。あなたの考えることも口にすることも想像することも、あなたが行なって来たことのすべてを知っておられる神は、あなたがどれ程罪に染まっているかをご存じです。あなたが思っている以上に、あなたが罪深いことを神は知っておられます。

「侮辱をもって侮辱に報いず、」と言いました。どんなに酷いことを言われたとしても赦して上げなさいと。皆さん、創造主なる神に酷いことを言ってきた私たちを神は赦してくださったからです。創造主なる神など私には必要ないとその方に背を向け続けて来た私たちを、この神は赦してくださったのです。だから、赦して上げなさいと。私たちは人の悪に対して仕返しをすることは正しくないことを知っています。いくつかみことばを挙げますから聞いていてください。皆さんがよくご存じのみことばです。

エペソ 4：29「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。」、これが神のみこころです。

コロサイ 3：8「しかし今は、あなたがたも、すべてこれらのこと、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを、捨ててしまいなさい。」、神が耳を覆われるような恥ずかしいことばを口にしていらないでしょうか？

箴言 4：24「偽りを言う口をあなたから取り除き、曲がったことを言うくちびるをあなたから切り離せ。」

伝道者の書 5：6「あなたの口が、あなたに罪を犯させないようにせよ。使者の前で「あれは過失だ」と言ってはならない。神が、あなたの言うことを聞いて怒り、あなたの手のわざを滅ぼしてもよいだろうか。」

ですから、このようにみことばを見ると、私たちがどのようなことばを口にするかということに注意しなさいという警告が記されていることが分かります。口から何を出すのか、どんなことを言うのか、注意しなさいと言うのです。

⇒結論

ペテロは言います。私たちはいろいろな酷いことを言われて怒るかもしれないけれど、大切なことは、あなたが悪いことばをもって罪を犯さないことだと。ぜひ、覚えてください。人のことばによってつまづくことがあったり、人のことばによって心が傷つくことがあっても、「主よ、あなたは私を赦してくださいから、私もその人を心から赦せるようにどうぞ助けてください。酷いことを言われて私の心には怒りが込み上げて来ます。このままだと必ず悪いことばが出て来るから、その罪を犯さないように私の心を正してください。」と、そのような祈りをもって私たちがその出来事に向かっていくなれば、私たちは確実に変わっていくと思いませんか？

3. 祈り：「かえって祝福を与えなさい。」

「祈る」ことを教えています。対象はすべての人々です。面白い接続詞が最初に付いています。「かえって」という接続詞です。というのは、この「祝福を与える」という応答は普通とは異なる応答だからです。いやなことをされたらそれに仕返しをする、いやなことを言われたならそれに仕返しをするというのが普通の応答かもしれません。しかし、ここでペテロが言うことはその普通の応答ではありません。神が喜ばれる応答をするということです。どんなことか？その人のために祈ってあげなさいということです。その人のために執り成しの祈りをささげなさいと。難しそうに思えるのですが、迫害を経験したパウロがこのように言っています。I コリント 4：12「また、私たちは苦勞して自分の手で働いています。はずかしめられるときにも祝福し、迫害されるときにも耐え忍び、」と。パウロ自身がそのように生きていたのです。酷いことをする人のために祈りなさい、彼らの上に祝福があるように祈ってあげなさいと。

◎どのような祝福を祈るのか？

(1) まだイエスの救いを信じていない人のためには、

私たちができる最も良いことは、その人の心が開かれて救いに与ることを祈ることです。近所に余り親しくない人がいるなら、その人のために祈ることです。そして、私たちがその人に愛を示すことです。あいさつされないから私もあいさつしないではなく、返事がなくても私たちはあいさつをすることです。

(2) クリスマンなら、

彼らがキリストにあって、その信仰において成長するように祈ることです。これは決して信仰者として自分の方が立派であるということではありません。みな成長しなければいけない、その中にあってクリスマンが益々神に喜ばれる者となっていくように、祝福があるようにと祈り続けていくのです。

私たちが日頃している行為とは違うことを聖書は教えていると思いませんか？私たちは今まで自分の肉の欲するままに、肉が導くままに、感情の赴くままに行動していた部分があるのですが、みことば明確にこのように接するべきだ、このように歩むべきだということを教えています。

4. 励ましのことば：「祝福を与えなさい」

「祝福を与える」ということばには「良いことを言う」という意味もあります。今まで見て来たよう

に、悪口を言い返したり、陰で言うのではなく、かえって、彼らの上に祝福があるように求め続けていくこと、祈り続けていくことです。彼らの悪に対して私たちは善行を為すことです。良いこと、正しいことを為すのです。そして、彼らのことを非難したり悪口を言うのではなく誉めることです。心の中が苛立っているなら、その人たちの酷いところを見つけて人々の前に吹聴したくなります。「聞いた？見た？酷いことをしている！」と。そうではないと言うのです。かえって、彼らのすばらしいところを誉めて上げなさい、ソロモンは箴言 15 : 1 でこのように言っています。「柔らかな答えは憤りを静める。しかし激しいことばは怒りを引き起こす。」と。まさに「売りことばに買いことば」です。酷いことを言われて酷いことを言い返すとけんかが起こります。だから、私たちの口から人々に対する様々な非難や悪口がなくなるように願うことです。かえって、どんなときも私たちの口から人々への励ましのことばや彼らを誉めることばが出るなら、私たちは変わって来ると思いませんか？それが神が私たちに教えてくださっているみこころだからです。

B. その理由 : 「あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。」

今、私たちは四つのことを見て来ました。難しい人たちに私たちはどのように接していくのか？ペテロはそのことを教えてくれました。その理由を最後のところで教えるのです。「あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。」とあります。「召された」ということばは I ペテロの中にすでに 3 回出て来ています。一回目は 1 : 15 「あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なるものとされなさい。」。二回目は 2 : 9 「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」、三回目は 2 : 21 「あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。」、そして、四回目がこの 3 : 9 です。「受け継ぐために召された。」と。つまり、「召された」とは「救い」のことです。神ご自身があなたを救いへと召してくださった、救いへと導いてくださったということです。皆さんに見ていただきたいのは、「あなたがたは…」ということばの前に実はギリシャ語では「なぜならば」という接続詞が使われていることです。

ということは、ペテロは祝福を与えることは、祝福を受け継いだ者、すなわち、救われた者としての責任だということを教えているのです。「かえって、祝福を与えなさい。なぜなら、あなたは救われたから、神からすばらしい祝福をいただいたから、あなたにはその責任がある。」ということです。祝福に与るものとして救われたあなたは、その祝福を人々にもたらすという責任をいただいているということです。何かをしたからその褒美として神は救いをくださったのではありません。主が無償であなたに救いを与えてくださった、だから、それを無償で人々に分配していきなさいということです。そして、このように人々に祝福を分け与えていくというのは、主のみこころなのです。神が望んでおられるのです。だから、私たちはそれを行なっていこうとするのです。

◎「召された者」に与えられた祝福

- ・ **罪の赦しをいただいた** : だから、神の赦しがどのようなものかを人々に示していくのです。人間的な赦しを伝えるものではありません。あなたが主から赦されたその神の赦しを人々に伝えていこうとするのです。
- ・ **無条件の愛で愛された者** : あなたは無条件の愛で愛されたのです。罪に染まったあなたを神は一方的に愛してくださった、だから、私たちはその愛を人々に示していくのです。
- ・ **主の励ましをいただいている者** : 日々の生活において、私たちは主からすばらしい励ましをいただいで生きています。だから、人々を励ましていくのです。
- ・ **主の喜びをいただいている者** : その喜びを人々に分け与えていくのです。
- ・ **主によって祈っていただいている者** : 主に祈っていただいているあなたは人々のために祈り続けていこうとするのです。
- ・ **永遠のいのちをいただいた者** : そのことを感謝し、このすばらしい救いが信じる者すべてに与えられていることを人々に伝えていこうとするのです。

ペテロが言ったことは「あなたが神からいただいた祝福を人々に分け与えていきなさい。そのためにあなたは救われたのだ。そのためにあなたはこの祝福をいただいたのだ。」です。今、私たちが見て来たように、この世の中は心が渴ききった人たちで溢れています。電車に乗ると目に付くのは、人身事故で電車が遅れているというサインです。また、だれかが大切ないのちを犠牲にしてしまった。この世は希望もなくもがいている人たちで溢れているのです。内閣府は統計を出すことはできても、その問題の解決を出すことはできないのです。いったい、彼らに希望を与えることができるのはだれでしょう？

⇒世に対して、

- ・ **本当の満足をいただいた者であることを示すこと** : 本当の満足を得ることができると伝えることがで

きるのは、本当の満足を得た者だけです。

- ・ **本当の幸せをいただいた者であることを示すこと**：本当の幸せを得ることができると伝えることができるのは、本当の幸せを得た者だけです。
- ・ **生きていることがすばらしいことを世に示すこと**：それは生きていることが本当にすばらしいと喜んでいる者しかできません。生かされていることがすばらしいと人々に伝えることができる人は、そのことを喜んでいて人しかできません。

信仰者の皆さん、あなたが喜んでいなければどうして人々に示すことができますか？だから、私たちは失敗しながらも主の前の正しく歩み続けていこうとするのです。神のおことばに従っていこうとするのです。確かに、今日、私たちが見たことは人間的にはむづかしいです。神の愛を示せるか？神の赦しを示すことができるか？人々のために祈り祝福を与え続けていくことができるか？でも、神のみこころだからできるのです。神の助けをいただくときにそれが可能になるのです。

◎皆さんにいくつかの質問をします

- ・ あなたは人々に主イエス・キリストの祝福をもたらしていますか？
- ・ 主イエス・キリストのすばらしさをあなたは行ないによって示し続けていますか？
- ・ あなたは人々にとって祝福となっていますか？

私たちが今見て来たことこそ、私たちが模範とする主イエス・キリストご自身の生き方でした。そして、このように生きなさいと主ご自身があなたに望んでおられる生き方です。祝福を分け与えてください。あなたに与えられたその祝福を、ことばでもって生き方をもって周りの人々に明らかにしていくのです。信仰者の皆さん、あなたが祝福をいただいたのは、その祝福を人々に分け与えるためです。その働き人として今から出て行くことです。希望をもって生きることができると、喜びをもって生きることができると、永遠の祝福をもって生きることができると、そのことをいただいたあなたがしっかりと伝えていきなさいと言います。そのような働き人としてどうぞ歩み続けてください。「あなたがたは祝福を受け継ぐために召された」、救われたのです。

《考えましょう》

1. 人の悪に対して勝利するには、どうすれば良いと思いますか？
2. 「祝福を受け継ぐために召された」とありましたが、あなたが主からいただいた祝福を挙げてください。
3. 「人々に祝福を与えること」を主がお喜びになるのはどうしてだとあなたは思われますか？また、どうしてそのことがあなたにとって大切なのでしょうか？